



蒲田交信局



いつもお世話になっております。城南村田の営業の浅井です。
久々に順番が回ってきました。今回は「失敗して忘れられないこと」について書かせていただきます。

それは私が小学校3年の頃の話です。
当時は家族旅行として色々なところへ連れて行ってもらっていました。
その日は父・母・姉・私の4人で埼玉県の大宮に行きました。川で溪流下りを楽しみ、近くの山に登り、頂上で弁当を食べてすごく楽しかったのを覚えております。
お腹もいっぱいになり、一休みしてから「そろそろ帰ろうか」と山を降りはじめました。
小3の私と小6の姉、下り坂を駆け下りるとスピードが出て楽しかったのでしょう。今思うとやめておけばいいのに競争することとなりました。結果は歴然で、姉はスイスイと前を降っていきます。私も小さいながら負けたくない気持ちで姉に追いつこうと足がもつれそうになりながらも必死で後を追っていきます。

その時です。
一瞬、体がフワッと浮きました。つまずいてしまったのです。
スピードを出していたため、かなりの距離を飛んでいた記憶があります。

「ドカッ」
鈍い音を立ててヘッドスライディングのように地面につきました。
運の悪いことにそのころんだ顔の下には、きれいに切られてない切株がありました。
顔を上げるとボタボタと血が滴りました。その切株で額を切ってしまったのです。痛くはなかったものの、あまりのショックで大泣き(笑)
父が急いでタオルで止血をし、ふもとまでおんぶしてもらい病院に行きました。
幸い何針か縫うだけで済みましたが、今でも額の傷を見ると思い出します。

「旗本退屈男」のような傷を持つ男、浅井でした(笑)



蒲田交信局



いつも大変お世話になっております。営業部の浅野です。今回は「一生懸命頑張った思い出」です。

私は中学校 3 年間、軟式テニス部に所属していました。どちらかというと不真面目な部員で、サボることばかり考えていました。筋肉トレーニングや基礎練習などは殆どやらなかった覚えがあります。

同じ区域に強豪校がありました。そこは市の大会や県大会の常連校で、部員も多く、しかもレギュラーはイケメン揃い。試合をする時は多くのギャラリーに囲まれ、声援もひと際大きい。

かたやこちらは、部員も少なく、応援も少ない、力も無い、思春期の男子中学生がひがみ根性を持つには十分な環境です。

部活生活最後の試合で、決勝まで勝ち進み、対決するのはやはりその強豪国です。最後位は一泡吹かせようとこちらも一生懸命頑張ってきました。

試合は 3 チーム対 3 チームの団体戦です。私たちのペアがトップバッターでした。そして相手ペアはこれまで散々戦ってきた因縁の相手。お互いの性格も知り尽くしている相手です。これまでの戦績は 7 対 3 で負け越しています。最後はなんとしても勝利で飾りたい！決勝戦だったので回りには多くの学生が取り囲んでいます。もしかしたらイケメン vs 悪役と映っていたかもしれませぬ。

結果は…、負けました。負け越しのまま終わってしまいました。団体戦、先に 2 勝した方が勝ち。もう後がありません。

しかしトップバッターの私たちが負けた事で、他の 2 チームが奮起してくれました。弱小チームが強豪をひっくり返す、ドラマのような展開で試合が進み、結果 2-1 で私たちの中学が優勝しました。学生生活最後にして、初の優勝です。

後日、市の大会が行われたのですが、あっさりと敗退。燃え尽きてしまったのもしれませぬ。

今でもたまに当時の仲間と会い、お酒を飲んだりしますが、必ずあの当時の事が話題に出てきます。20 年以上経った今でも忘れられない思い出です。